

種名	カ　ム　ル　チ　ー Channa argus 					
	分類	スズキ目タイワンドジョウ科	俗称	サギ(兵庫)	生活型	底生性、純淡水魚
分布	原産地はアジア大陸東部で、北はアムール川から朝鮮半島を経て、南は揚子江付近にまで分布する。わが国には 1923～24 年に朝鮮半島から奈良県に移入されたのが最初らしい。現在では本州、四国、九州の平野部の湖沼や河川に分布し、北海道でも記録されている。					
形態	全長約 300～800 mm。体が細長く、背鰭の基底が長いのがタイワンドジョウ科の特徴である。					
類似種	カムルチーのほかによく似たものとして、タイワンドジョウとコウタイがいる。コウタイには腹鰭がなく、タイワンドジョウの体側の斑紋は3列(カムルチーは2列)である。					
生息場所	流れの緩やかな、水草の繁茂する水域に、単独で生息する。成魚は河川の淀みや池沼などの水の濁った泥底の止水域を好み、水深1m前後の水草の茂ったところに多い。冬は深いところに移り、泥または水草の破片の積もった中で冬眠する。増水時には浅いところに出現することもある。前期仔魚は巢内の表層を遊泳する。後期仔魚は巢から出て岸辺を泳ぎ回すが、水草から遠く離れることはない。					
食性	本種は肉食性で、仔魚は浮遊動物を食べるが、全長 40 mm程度から小魚を食べようになり、共食いもある。成魚は魚類、カエル、ザリガニを食べ、ときにはヘビ、ネズミなどまで餌にする。					
繁殖	産卵期: 5～8月で、水温 20～30℃の頃。産卵場所: 川の淀みの入り江の、水深 0.2～1mのところや池沼の沿岸部。産卵床: 雌雄が共同で作った浮巢。 卵: 球形の浮性卵で、直径 1.9～2.0mm産卵数: 1回に 1300～1万 5000 粒、平均 7300 粒の卵を産む。平均 16 日間隔で2～5回産卵する。孵化日数: 水温 31℃では約 28 時間、18℃では約 120 時間で孵化する。婚姻色: 発情した雌雄は体色が銀白色となり、体側の斑紋も見えないくらいに薄くなる。産卵行動: 雌雄は共同で浮巢を作る。水草の破片や流れてきたゴミを集めてドーナツ状にした巢は直径約1mもある。産卵は早朝に雌雄のつがいで行なわれる。雌雄は産卵後も巢の下にとどまり、卵や仔魚を外敵から守る。カムルチーの浮巢にうかつに手を出すと、下に潜む親魚に噛みつかれることもある。					
配慮のポイント	〇肉食性外来魚であり、在来の魚類に影響を与えており、特に環境上配慮する必要はない。					
トピックス						
引用文献: 『川の生物図典 植物』を改変						